

講座で学生の意見を聞く瀬古講師（右端）。県の担当者（左端）も加わった
（撮影・荒木肇）



ライフデザイン 未来の設計図 描いてみよう

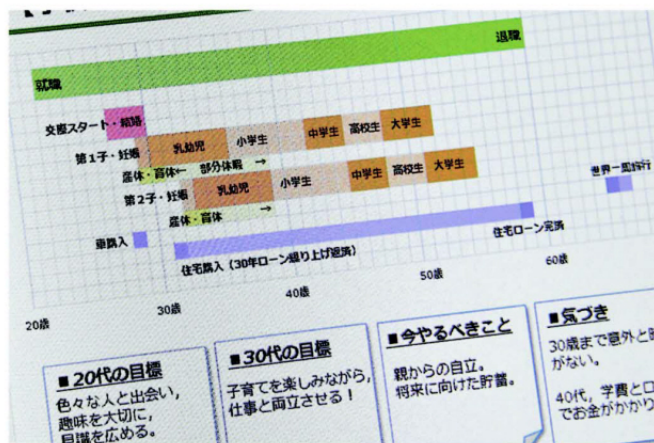
若いうちに未来の設計図「ライフデザイン」を描いてみませんか。今、そんなふうによくの自治体や国が学生たちに、就職や結婚などの未来予想図を作るよう勧めている。広島県は、目標を書き込むウェブサイトや設けたり、大学生と意見交換したりしている。自治体などにどんな狙いがあるのか。当の若者はどう受け止めているのか。広島県との連携事業が進む鞆啓大（広島市中区）の現場などを見た。（赤江裕紀）

広島県、サイト開設や鞆啓大で講座

「自分のライフデザインを作ってみよう」。広島県は特設サイト「LIFE DESIGN」でそう呼び掛けている。それぞれがイメージする就職や結婚、第1子誕生時の年齢や、年代ごとの目標を入力すると、大まかな人生の行程表ができるようになっていく。若者に仕事や育児を担っていく覚悟と展望を持つてもらい、少子化対策につなげる目的だ。

県は、実際に若者の意見を聞き、サイトの改良にも生かすため鞆啓大と連携して10月から、同大でライフデザインに関する連続講座を開く。11月中旬の講座では、学生から「理想と現実に開きが出た場合、その差を埋めるための助言が欲しい」などの意見が出た。出席したソーシャルシステムデザイン学部1年の岬

覚悟と展望「必要な情報を」



ライフデザインマップの例。仕事や結婚、育児の将来の希望像が一目で分かる

「それでも講座を担当する瀬古素子講師（49）は、事前に正しい知識を得た上で、人生計画を考えることが大切」と強調する。「例えば、妊娠に適した年齢を知らず、出産の希望がかなえられないこともあるかもしれない。それぞれの人生の展望を考え、それに必要な情報に触れる機会を増やしてほしい」と願う。

この日の講座では、サイトの使い勝手について、学生から「ライフイベントを入れる数が限られている」「『保存機能がない』などの不満の声も相次いだ。大学就職課などでサイトをPRしてはどうかとの提案もあった。県は、学生の意見を受けて本年度中にサイトを改良する予定で「若い人が理想を実現するために、どうすればいいのかわからない」としてはいる。

ライフデザインを考える際のポイント(例)

- ◆生活やライフイベントに必要な費用を知る
- ◆出産の平均年齢や妊娠率などのデータを知る
- ◆仕事の展望を描く
- ◆結婚や子どもを希望するかどうか、希望する場合は何歳ごろか考える



グラフィック・大友勇人